

**平成 25 年度**  
**岩手県出資等法人運営評価レポート**

**平成 26 年1月**

**総 務 部**

# 目 次

## 《総括編》

1 趣旨	1
2 県出資等法人運営評価の基本的な考え方	1
3 県出資等法人数について	2
(1) 県内に主な事務所を有する法人	2
(2) 指導監督対象法人	2
(3) 運営評価対象法人	2
4 県出資等法人運営評価の概要について	4
(1) 資本金等と県の出資等の状況	4
(2) 中期経営計画における経営目標の達成状況について	5
(3) 役職員の状況	6
(4) 財務の状況	7
(5) 県の財政的関与の状況	9
(6) 情報公開の状況	10
(7) 前年度指摘事項への取組状況	12
(8) マネジメント評価の結果について	12
5 今後の運営評価の取組について	14
6 法人ごとの運営評価結果の記載内容について	15
I 法人の概要	16
II 所管部局の評価	17
III 統括部署（総務部）の総合評価	17

別表 1 平成 25 年度県出資等法人運営評価対象法人一覧

別表 2 平成 25 年度県出資等法人運営評価対象法人概要及び運営評価結果一覧

## 《個別法人編》

○ 平成 25 年度県出資等法人運営評価の結果（43 法人）

参 考 平成 25 年度県出資等法人運営評価シート様式

## 1 趣旨

県出資等法人改革については、平成 15 年度から平成 18 年度を推進期間とする「岩手県出資等法人改革推進プラン」（旧プラン）そして平成 19 年度から平成 22 年度には「新岩手県出資等法人改革推進プラン」を基に法人改革などに取り組んできました。

平成 23 年度には新たに県の「第 2 期アクションプラン[改革編]」を定め、平成 23 年度から平成 26 年度における県出資等法人の更なる改革を進めています。

平成 25 年度の県出資等法人運営評価は、平成 24 年度を評価対象年度とし、対象法人及び各所管部局において運営評価（1 次評価及び 2 次評価）を行うとともに、その結果等を基に、統括部署である総務部において総合評価を行ったものです。

本レポートは、対象法人の概要をお知らせするとともに、本年度の運営評価の結果を取りまとめ、それぞれの法人の改革・改善に向けて、今後取り組むべき方向を明らかにするものです。

### 「県出資等法人」とは：

県の施策を遂行するために、県が直接事業を行うよりも法人が役割を担うことが適切な場合など、必要に応じて設立し、あるいは出資などを行っている法人のことをいいます。

一般的に、「第三セクター」や「外郭団体」ということもあります。

そのうち、県内に主たる事務所を有する法人のうち、県の出資が資産株となっている法人<sup>注1</sup>以外について、県では「県出資等法人指導監督要綱」を制定して運営評価を実施するなどの指導監督を行っています。

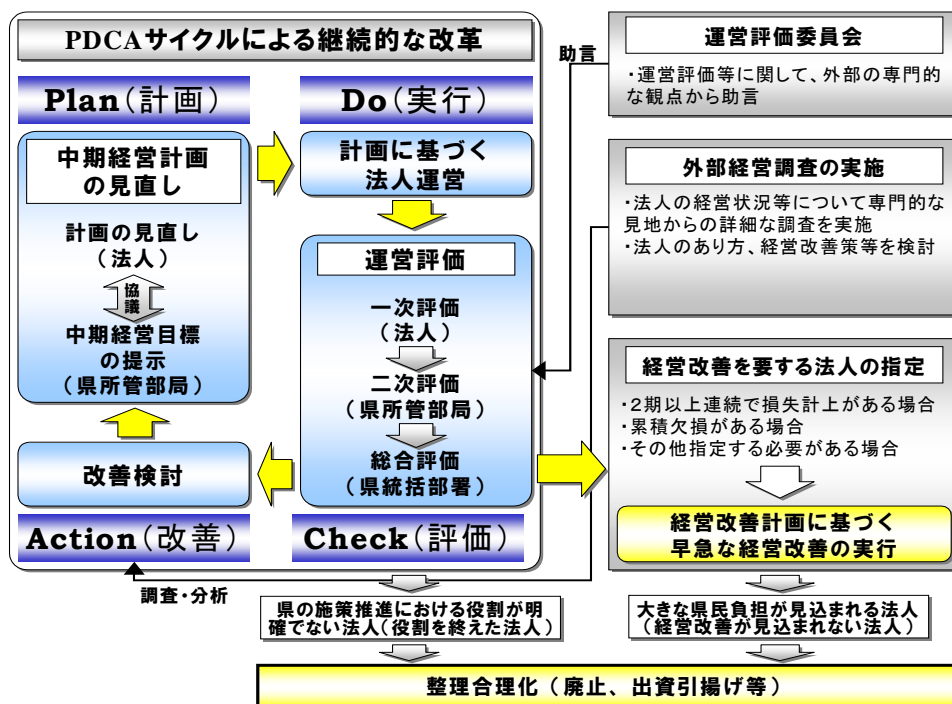
注 1：(株)岩手銀行、(株)東北銀行

## 2 県出資等法人運営評価制度の基本的な考え方

県が掲げる施策目標を達成することを使命とする県出資等法人が、最も効率的に質の高いサービスを提供するとともに、その経営が将来にわたって県民の負担をまねくことのないよう自らの課題を解決していくためには、継続的な改善の取り組みを行うことが必要です。

このため、平成 16 年度に、県と法人が共に徹底して課題を洗い出し改革を進める新たな運営評価制度を創設し、それ以降、PDCA（「計画」⇒「実行」⇒「評価」⇒「改善」）サイクルの確立による徹底した法人改革に取り組んでいます。

県出資等法人運営評価制度の体系図



3 県出資等法人数について

(1) 県内に主な事務所を有する法人 (45 法人)

(2) 指導監督対象法人 (43 法人)

平成 25 年 7 月 1 日現在、県内に主な事務所を有する県出資等法人は 45 法人となっていますが、このうち「岩手県出資等法人指導監督要綱」に基づき、県の出資が資産株となっている法人を除いた 43 法人を指導監督の対象としています。

平成 25 年度 指導監督対象法人数

区 分	特別法 法 人	公益法人等		会社法 法 人	合 計
		社 団	財 団		
県内に主な事務所を有する県出資等法人	5	5	21	14	45
指導監督対象法人	5	5	21	12	43

(3) 運営評価対象法人 (43 法人) (別表 1 「平成 25 年度県出資等法人運営評価対象法人一覧」参照)

指導監督対象法人 43 法人について、県の関与の度合い等に応じて次の類型ごとに評価シート、評価方法等を設定して運営評価を実施しました。

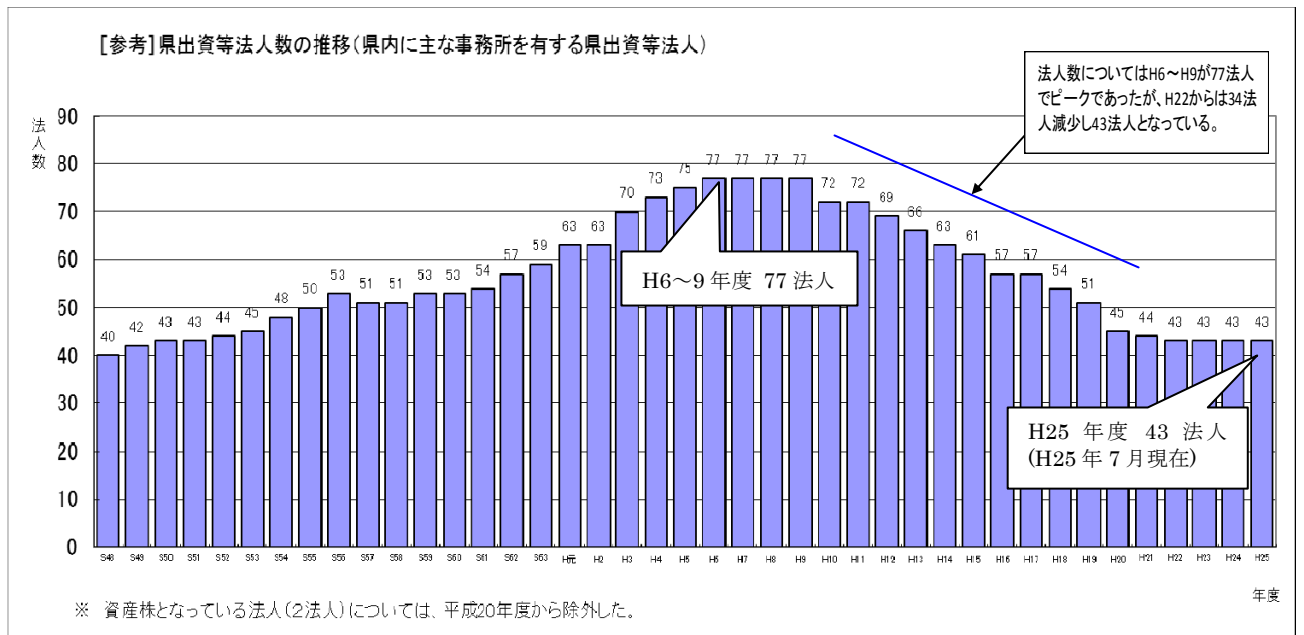
① 分類基準

区分	基準	該当法人数
類型1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県出資比率 50%以上の法人 ただし、特別法法人で、関係法令に基づき、国による常例検査が行なわれている法人を除く。</li> <li>○ 県出資比率 25%以上 50%未満の法人のうち、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繰越欠損金が発生、または経営改善を要する法人に指定されている法人</li> <li>・ 県の運営費補助、運転資金としての短期貸付を受けている法人</li> <li>・ 県職員派遣を受けている法人又は県職員が代表者に就任している法人</li> </ul> </li> <li>○ 上記のほか、法人の経営状況や将来リスク等を総合的に勘案し、類型1に分類する必要があると認められる法人※</li> </ul>	25 法人
類型2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県出資比率 25%未満の法人</li> <li>○ 県出資比率 25%以上の法人のうち、類型1に該当しない法人</li> <li>○ 廃止等法人及び地元自治体の主導的関与に委ねる法人</li> </ul>	18 法人

※ 2期連続して決算で損失計上、累積欠損の発生等を想定。

② 運営評価の方法

区分	運営評価の実施	運営評価実施主体
類型1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運営評価シートに基づく評価</li> <li>・ 総務部による総合評価</li> <li>・ 法人及び所管部局への個別ヒアリング</li> </ul> <p>※法人及び所管部局への個別ヒアリングは必要に応じて実施</p>	法人及び県
類型2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運営評価シート（簡易版）による法人の経営状況の把握</li> </ul> <p>※所管部局への個別ヒアリングは必要に応じて実施</p>	県



## 4 県出資等法人運営評価の概要について

平成 25 年度における県出資等法人運営評価の結果をみると、平成 16 年度に運営評価制度を導入して以降、PDCA サイクルに基づく法人の改革・改善の取組が浸透し、マネジメント能力の向上が認められますが、中期経営計画における経営目標のうち、事業目標の達成状況については、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波の対応などにより達成状況が低下しています。

今後も、東日本大震災津波による甚大な被害からの復興に向けた県の施策実施における推進主体の一つとして、県出資等法人の持つ資源・能力を生かしていくことが期待されています。

### (1) 資本金等と県の出資等の状況

#### 《法人の資本金等の規模》

法人の資本金等の規模をみると、特別法・会社法法人においては資本金 10 億円以上の法人の割合が最も高く、公益法人等においては 1 億円未満の法人の割合が最も高くなっています。資本金等が 10 億円以上の 13 法人のうち、特別法・会社法法人が 9 法人、公益法人等が 4 法人で、株式会社や信用基金協会の資本金等の額が大きい傾向があります。また、公益法人等にあっては、基本財産の運用益により事業を実施している法人の資本金等の規模が大きくなっていますが、これは職員数や実施事業の規模（年間事業費）と比例しているものではないことに留意する必要があります。

資本金等規模別法人数			(単位:法人)			
区 分	法人数	構成比	うち特別法・会社法法人		うち公益法人等	
			法人数	構成比	法人数	構成比
10億円以上	13	30.2%	9	52.9%	4	15.4%
5億円以上10億円未満	5	11.6%	1	5.9%	4	15.4%
1億円以上5億円未満	8	18.6%	2	11.8%	6	23.1%
1億円未満	17	39.5%	5	29.4%	12	46.2%
合 計	43	100%	17	100.0%	26	100.0%

#### 《県の出資等割合》

法人の資本金等における県の出資等割合をみると、全体では 25%以上 50%未満の法人の割合が最も高くなっていますが、公益法人等においては 75%以上の法人の割合が最も高く、県の出資等割合が 100%の法人も特別法法人 2 法人、公益法人等 3 法人の計 5 法人あります。

県出資等割合別法人数			(単位:法人)			
区 分	法人数	構成比	うち特別法・会社法法人		うち公益法人等	
			法人数	構成比	法人数	構成比
75%以上	12	27.9%	2	11.8%	10	38.5%
(うち100%)	5	11.6%	2	11.8%	3	11.5%
50%以上75%未満	9	20.9%	2	11.8%	7	26.9%
25%以上50%未満	15	34.9%	7	41.2%	8	30.8%
25%未満	7	16.3%	6	35.3%	1	3.8%
合 計	43	100.0%	17	100.0%	26	100.0%

#### 《資本金等は前年度と比較して増加》

また、平成 25 年度の運営評価対象法人（43 法人）の資本金等の状況をみると、全法人の合計で前年度と比較して 104,153 千円増加しています。

これは、信用基金協会における出資金の増加等によるもので、引き続き各法人において経営基盤の確立に努めていることが伺われます。

法人の資本金等と県の出資等の状況							(単位:法人、千円、%)	
区 分	法人数	資本金等の額					県出資金等の額	県の出資等割合
		22年度	23年度	24年度	25年度	対前年比		
特別法・会社法法人	17	30,234,911	30,275,811	30,275,011	30,351,231	76,220	10,426,909	34.4%
公益法人等	26	11,162,255	11,167,441	11,173,102	11,201,035	27,933	7,689,225	68.6%
合 計	43	41,397,166	41,443,252	41,448,113	41,552,266	104,153	18,116,134	43.6%

## (2) 中期経営計画における経営目標の達成状況について

### 《類型 1 の 25 法人が中期経営計画を策定》

県出資等法人のうち類型 1 に該当する 25 法人については、中期経営計画を策定し、経営目標（事業目標及び経営改善目標）を設定して計画的な法人運営を行っています。

### 《平成 25 年度の目標値の設定》

中期経営計画の平成25年度目標見直しにあたっては、本年 3 月に各法人の平成25年度事業計画等から、県の施策推進における法人の役割を果たすための事業及び法人が経営を行うにあたって改善に取り組む事項について、所管部局及び統括部署において検証を行い設定しました。

《経営目標の達成状況は概ね7割程度》

平成24年度における経営目標の達成状況は、事業目標65.5%（昨年度68.6%）、経営改善目標77.8%（昨年度73.1%）となっており、事業目標の達成割合は低下しましたが、経営改善目標は達成割合が上昇しています。

	事業目標			経営改善目標		
	達成	未達成	合計	達成	未達成	合計
項目数	72	38	110	77	22	99
構成比	65.5%	34.5%	100.0	77.8%	22.2%	100.0

個別法人毎の達成状況では、全ての目標で達成した法人は、事業目標、経営改善目標ともに10法人となっていますが、50%未満の法人は、事業目標8法人、経営改善目標4法人となっています。

事業目標の達成状況（達成割合別法人数） （単位：法人、%）			経営改善目標の達成状況（達成割合別法人数） （単位：法人、%）		
達成した目標の割合	法人数	構成比	達成した目標の割合	法人数	構成比
全目標100%	10	40.0	全目標100%	10	40.0
50%以上100%未満	7	28.0	50%以上100%未満	11	44.0
50%未満	8	32.0	50%未満	4	16.0
合計	25	100.0	合計	25	100.0

《目標設定の妥当性検証の強化》

PDCA サイクルを効果的に運用するためには、目標設定が非常に重要であることから、目標設定の妥当性について検証する取組みを引き続き強化していくこととします。

(3) 役職員の状況

《3法人で県職員が代表者に就任》

運営評価対象法人（43法人）のうち、代表者に県職員が就任している法人は、（公財）さんりく基金、（財）岩手県オイルターミナル、（株）岩手ソフトウェアセンターの3法人となっており、前年度と同数となっています。（別表2：平成25年度県出資等法人運営評価対象法人概要及び運営評価結果一覧「県職員の代表者就任」参照）

「役員の状況（常勤）」を見ると、平成25年7月1日現在、常勤の役員数は合計80名で、常勤役員のない法人が5法人ありますが、この5法人はいずれも公益財団法人です。

（別表2：同「役員の状況（常勤）」参照）

《県退職職員が常勤役員に就任している法人の割合は62.8%》

県関係者の法人役員（常勤）就任については、P7のとおり県派遣職員は3法人に3名、県退職職員は27法人に31名が就任しており、昨年度と比較して県派遣職員は1名増加、県退職職員は4名減少し、県退職職員が役員に就任している法人の全出資等法人に占める割合は62.8%となっています。



《県派遣職員数は増加》

常勤の職員数 2,404 名のうち、12 法人の 99 名が県派遣職員、16 法人の 75 名が県退職職員となっています。昨年度と比較して県派遣職員は 1 名増加、県退職職員は 5 名増加していますが、これは東日本大震災津波や福島第一原子力発電所事故に起因する業務量の増加等によるものです。

区分	役員数					職員数				
	うち県派遣		うち県OB			うち県派遣		うち県OB		
特別法・会社法法人	48	0	0法人	13	11法人	1,800	32	3法人	6	5法人
公益法人等	32	3	3法人	18	16法人	604	67	9法人	69	11法人
合計	80	3	3法人	31	27法人	2,404	99	12法人	75	16法人

《県職員派遣は削減の方向で見直し》

県職員派遣については、県と法人の役割分担の明確化や法人の自立的経営の観点から適正化を図る必要があります。また、法人役員への県職員の就任については、法人に県施策推進上の役割を十分に果たしてもらう上で、所管部局としての指導監督のみでは十分でないため、法人運営に役員として直接参画する必要が特にある場合に限るなど、基本的には削減する方向で見直しを行う必要があります。

《職員数は 10 人未満の法人が最多》

職員数については、10 人未満の法人が 21 法人 (48.8%) で最も多くなっており、特に公益法人等においては半数以上が 10 人未満であり、そのうち 9 法人 (34.6%) は 5 人未満と職員規模が小さい傾向があります。

区分	全法人		うち特別法・会社法法人		うち公益法人等	
	法人数	構成比	法人数	構成比	法人数	構成比
100人超	5	11.6%	4	23.5%	1	3.8%
50人～100人未満	6	14.0%	4	23.5%	2	7.7%
10人～50人未満	11	25.6%	3	17.6%	8	30.8%
10人未満	21	48.8%	6	35.3%	15	57.7%
(うち5人未満)	10	22.7%	1	5.9%	9	34.6%
合計	43	100.0%	17	100.0%	26	100.0%

(4) 財務の状況

運営評価対象法人 (43 法人) の平成 24 年度における財務の状況は、次のとおりです。

ア 単年度収支 (当期損益又は当期一般正味財産増減額)

《プラス計上の法人数は増加、プラス額は減少》

特別法・会社法法人は当期損益により、また公益法人等は当期一般正味財産増減額により法人の決算状況の推移をみると、プラスを計上した法人数は増加しましたが、

プラス額は減少しています。

単年度収支がマイナスとなった法人は12法人と、平成23年度の13法人に比べて1法人減少しました。マイナスを計上した要因を見ると、東日本大震災津波による影響が多くなっています。

また、単年度収支がマイナスとなった法人の合計金額は、平成23年度のマイナス18億467万円から15億5,260万円縮小し、マイナス2億5,207万円となっています。このうちの1億9,918万円(79.0%)が3法人のマイナス額であり、これは東日本大震災に伴う自主事業の減収や復興支援事業の計上によるものです。その他の9法人の1法人当たり平均マイナス額は588万円余となっています。

平成24年度決算における単年度収支(当期損益、当期一般正味財産増減額)の状況(総括表)

区分		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		
		法人数	該当法人の損益等の合計額	法人数	該当法人の損益等の合計額	法人数	該当法人の損益等の合計額	法人数	該当法人の損益等の合計額	対前年比
特別法・会社法人	当期損益がプラス	15	1,117,122	12	1,542,114	12	2,684,778	17	2,942,653	257,875
	当期損益がマイナス	2	▲ 397,494	5	▲ 1,679,638	5	▲ 1,482,242	0	0	1,482,242
公益法人等	当期一般正味財産増減額がプラス	15	794,311	16	926,213	18	2,005,776	14	1,699,868	▲ 305,908
	当期一般正味財産増減額がマイナス	11	▲ 1,061,505	10	▲ 102,214	8	▲ 322,427	12	▲ 252,067	70,360
合計	単年度収支がプラス	30	1,911,433	28	2,468,327	30	4,690,554	31	4,642,521	▲ 48,033
	H23・24年度ともプラス継続							24	3,648,564	
	H24年度新たにプラス化							7	993,957	
	単年度収支がマイナス	13	▲ 1,458,999	15	▲ 1,781,852	13	▲ 1,804,669	12	▲ 252,067	1,552,602
	H23・24年度ともマイナス継続							6	▲ 77,831	
	H24年度新たにマイナス化							6	▲ 174,236	

## イ 繰越損益

### ◀繰越損失計上は3法人▶

特別法・会社法人について、繰越損益の推移をみると、繰越損失を計上している法人は3法人と平成23年度の6法人から3法人減少しています。

繰越損失の合計額は前年度から14億1,658万円縮小しておりますが、東日本大震災津波の被害による過年度の特別損失などが要因となっています。

平成24年度決算における繰越損益の状況(特別法・会社法人)(総括表)

区分		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		
		法人数	該当法人の損益の合計額	法人数	該当法人の損益の合計額	法人数	該当法人の損益の合計額	法人数	該当法人の損益の合計額	対前年比
繰越損益がプラス		13	10,235,478	11	10,086,372	11	32,906,443	14	35,353,783	2,447,340
H23・24年度ともプラス継続								11	34,406,409	
H24年度新たにプラス化								3	947,374	
繰越損益がマイナス		4	▲ 868,150	6	▲ 2,119,990	6	▲ 1,979,622	3	▲ 563,041	1,416,581
H23・24年度ともマイナス継続								3	▲ 563,041	
H24年度新たにマイナス化								0	0	

注 繰越損益がゼロのものは、プラスに含めて集計した。

## ウ フローチャートによる財務評価

### 《良好（A）、概ね良好（B）は23法人》

類型1に該当する25法人について、特別法・会社法法人は損益計算書における当期損益及び累積欠損金の状況、また、公益法人等は独立採算度及び当期正味財産増減額に基づくフローチャートによる法人の財務評価の結果をみると、「良好」（A）及び「概ね良好」（B）とされた法人が23法人となっており、24年度と同数となっております。

一方、「改善を要する」（C）とされた法人が2法人となっております。

### 《財務の健全化に向けた経営改善の取組みの推進》

「良好」（A）となった法人は24年度から増加していますが、依然として低金利の長期化により事業原資となる運用益が減少している影響もあると認められるため、引き続き事業の効率的な実施に努める必要があります。

フローチャートによる財務評価の結果					(単位: 法人)
	A: 良好	B: 概ね良好	C: 改善を要する	D: 大いに改善を要する	合計
特別法・会社法法人	6 [4]	1 [2]	0 [1]	0 [0]	7 [7]
公益法人等	7 [8]	9 [9]	2 [1]	0 [0]	18 [18]
合計	13 [12]	10 [11]	2 [2]	0 [0]	25 [25]

注 [ ]内の数値は平成24年度における評価結果

## (5) 県の財政的関与の状況

### 《財政関与の額は減少》

法人への県の財政的関与の状況を見ると、平成24年度においては、23年度に比較して、運営費補助金が5,493万円の減、短期貸付金は3億8,050万円の減、損失補償金額が2億9,313万円減少しました。

### 《財政的関与の適正化》

法人への県の財政的関与については、法人が県の施策推進における役割を果たす上で真に必要なものか、法人の自助努力は十分かを検証し、引き続き適正化を図っていきます。

また、関係団体に対する随意契約の締結について、全国的に問題となっている事例もあることから、県出資等法人との契約締結に際しても、随意契約とする場合にあっては、当該法人しか実施できない業務であるかなど、妥当性を十分検証した上で契約することとします。

### 《損失補償は真に必要な場合に限定》

なお、損失補償については「第三セクター等の抜本的改革等に関する指針」（平成21年6月23日付け総務省自治財政局長通知）においても、「特別な理由があるとき以外は、第三セクター等の資金調達に関する損失補償は行うべきではない」とされてい

ることから、引き続き、予算編成の過程において、その必要性、妥当性等を十分に検討し、法令で義務付けされているなど真に必要な場合に限定することとします。

県の財政的関与の状況														(単位:千円)			
区分	運営費補助金					短期貸付金(運転資金)					損失補償						
	法人数	22年度	23年度	24年度		法人数	22年度	23年度	24年度		法人数	22年度	23年度	24年度			
		金額	金額	金額	対前年比		金額	金額	金額	対前年比		金額	金額	金額	対前年比		
特別法・会社法法人	2(3)	688,342	478,450	420,259	▲ 58,191	2(2)	82,500	455,500	775,000	319,500	2(2)	328,083	469,094	491,364	22,270		
公益法人等	2(2)	41,655	23,154	26,413	3,259	1(1)	1,100,000	1,000,000	300,000	▲ 700,000	3(3)	3,479,980	2,782,142	2,466,747	▲ 315,395		
合 計	4(5)	729,997	501,604	446,672	▲ 54,932	3(3)	1,182,500	1,455,500	1,075,000	▲ 380,500	5(5)	3,808,063	3,251,236	2,958,111	▲ 293,125		

注 法人数の( )書きは23年度の法人数

○ 増減の主なものとして、運営費補助金 5,493 万円の減は、社会福祉事業団における経費節減の結果、補助金額が 7,051 万円の減、三陸鉄道株式会社において東日本大震災影響を受けたことから、補助金額が 4,054 万円増となったもの

次に短期貸付金 3 億 8,050 万円の減は、クリーンいわて事業団の収支が改善したことから 7 億円の減、東日本大震災への復興支援のため、三陸鉄道株式会社に 3 億 2,700 万円の増の貸付けを実施したもの

最後に損失補償 2 億 9,313 万円の減は、クリーンいわて事業団において金融機関等からの融資残額の減少により 2 億 274 万円の減となったものである。

## (6) 情報公開の状況

### 《県民の理解と信頼確保の観点からの公開必要性》

県出資等法人は公共的性格を有し、財政基盤が県民の負担によって維持されていることなどを踏まえ、県民の理解と信頼を確保する観点から、県出資等法人に関する情報が、個人情報保護など特別の支障があるものを除いて、県民に分かりやすく、入手しやすい方法で「迅速、公平、正確」に提供されている必要があります。また、情報公開は法人の経営に対する県民によるチェックの機能も果たしています。

### 《積極的・分かりやすい情報公開の推進》

このようなことから、行政改革推進法（平成 18 年法律第 47 号）や「第三セクター等の抜本的改革等に関する指針」において、自ら積極的かつ分かりやすい情報公開を行うことが求められているところです。

このため、「法人の基本的情報」及び「県の関与に関する状況」について、主たる事務所への備え置き、法人のホームページ、その他の情報公開状況について確認を行っており、情報公開に係る取組状況の詳細は次表のとおりです。

法人の情報公開に係る取組状況											
公開媒体	全法人						うち出資率25%以上の法人(36法人)				
	① 主たる事務所への備え置き		② 法人のホームページ		備考	① 主たる事務所への備え置き		② 法人のホームページ		備考	
	法人数	公開率	法人数	公開率		法人数	公開率	法人数	公開率		
I 法人の基本的情報											
1	定款又は寄附行為	41	95.3%	28	65.1%		35	97.2%	27	75.0%	
2	役員名簿	41	95.3%	32	74.4%		35	97.2%	30	83.3%	
3	社員名簿(社団法人の場合)	5	100.0%	5	100.0%	5 法人	5	100.0%	5	100.0%	5 法人
4	事業報告書又は営業報告書	40	93.0%	32	74.4%		35	97.2%	31	86.1%	
5	決算関係書類	41	95.3%	36	83.7%		35	97.2%	33	91.7%	
6	事業計画書	36	83.7%	29	65.9%		34	94.4%	28	77.8%	
7	予算関係書類	35	81.4%	27	62.8%		34	94.4%	26	72.2%	
8	中期経営計画等の法人に係る基本的な計画書	31	72.1%	16	37.2%		31	86.1%	16	44.4%	
9	職員数に関する情報	40	93.0%	34	79.1%		35	97.2%	32	88.9%	
10	職員の給与に関する情報	32	74.4%	26	60.5%		31	86.1%	26	72.2%	
11	役員の報酬・退職金に関する情報	31	72.1%	26	60.5%		30	83.3%	26	72.2%	
II 県の関与に関する状況											
1	出資者の状況	35	81.4%	27	62.8%		31	86.1%	26	72.2%	
2	県からの財政的支援の額	26	89.7%	25	86.2%	29法人	25	100.0%	25	100.0%	25法人
3	県からの財政的支援の内容等	25	86.2%	24	82.8%	29法人	25	86.2%	24	96.0%	25法人
4	県派遣職員に関する情報	13	100.0%	12	92.3%	13法人	13	100.0%	12	92.3%	13法人
5	運営評価の結果	25	100.0%	13	52.0%	25法人	25	100.0%	13	52.0%	25法人

### 《情報公開割合は上昇》

平成22年度まで運営評価レポートにおいて、個別に該当法人に対して「取り組むべきこと」として指摘したほか、機会を捉えて情報公開の推進について指導を行った結果、職員数、役職員の給与・報酬に関する情報について、昨年度と比較して法人ホームページにおける公開割合は上昇しており、各法人が情報公開に積極的に取り組んでいる成果が現れています。

一方において、経費の関係等からホームページを開設していない法人もあることから、情報公開の重要性について引き続き啓蒙し、積極的に情報公開を推進するよう各法人に働きかけていくこととします。

法人ホームページにおける情報公開の状況 (公開率:%)										
区分	全法人					うち出資率25%以上の法人				
	22年度	23年度	24年度	25年度	増減	22年度	23年度	24年度	25年度	増減
職員数に関する情報	70.5	72.7	74.4	79.1	4.7	80.6	83.3	83.3	88.9	5.6
職員の給与に関する情報	45.5	50.0	55.8	60.5	4.7	55.6	61.1	66.7	72.2	5.5
役員の報酬・退職金に関する情報	47.7	52.3	58.1	60.5	2.4	58.3	63.9	69.4	72.2	2.8
県からの財政的支援の額	66.7	66.7	81.5	86.2	4.7	75.9	75.9	88.0	100.0	12.0
県からの財政的支援の内容	63.6	63.6	77.8	82.8	5.0	72.4	72.4	84.0	96.0	12.0
県派遣職員に関する情報	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0

### (7) 前年度指摘事項への取組状況

平成24年度の岩手県出資等法人運営評価レポートの総合評価において、各法人及び所管部局に対して「取り組むべきこと」として指摘した事項に対する取組状況を「実施済」、「取組中」、「未実施」に分類した状況はP12のとおりです。

前年度指摘事項への取組状況					(単位:項目数)				
《法人》	実施済	取組中	未実施	合計	《所管部局》	実施済	取組中	未実施	合計
項目数	9	29	0	38	項目数	9	21	0	30
構成比	23.7%	76.3%	0.0%	100.0%	構成比	30.0%	70.0%	0.0%	100.0%

#### 《法人における実施済・取組中が100%》

法人における「実施済」と「取組中」の合計が100.0%（昨年度100.0%）、所管部局における「実施済」と「取組中」の合計が100.0%（同100.0%）であり、法人、所管部局ともに指摘事項の解決に向けて前向きに取り組んでいることが伺われます。

指摘事項については、法人ホームページにおける情報公開の推進のように比較的短期間で実施できるものもありますが、経費削減、収入確保、県職員派遣の引上げなどの経営根幹に関わる中長期的な課題に係る指摘事項も多いことから、取組中のものが多くなっています。

#### 《進捗状況確認による課題解決の促進》

指摘事項に対する取組状況については、引き続き進捗状況を確認することにより課題解決を促進するとともに、「取り組むべきこと」として指摘する項目についても、抽象的で取組の具体策が立てられないことがないよう統括部署としても留意していくこととします。

### (8) マネジメント評価の結果について

#### 《マネジメント・サイクル運用状況の評価》

県出資等法人が県の施策推進において十分な役割を果たす上で、法人の事業活動による成果に加えて、よい成果を持続し向上させるためのマネジメント・サイクルの仕組みが構築され、それが狙いどおり運用されているかという点についても評価することが必要です。

このため、運営評価におけるマネジメント評価として、「法人の目的」、「経営計画管理」、「事業管理」、「組織管理」、「所管部局による指導・監督」の5つの視点から評価を行っています。

#### 《達成割合は若干低下》

5つの視点の達成割合は次のとおりですが、前年度と比較して事業管理、組織管理及び指導監督が若干低下しております。これは「具体的な取組状況とそれに伴う成果」を評価対象とし、求めるマネジメントのレベルを向上させているため、震災対応などで前年度から改善を行わず、同様の取組状況の場合など、評価は下がる結果となります。

マネジメント評価の状況		(単位:%)				
		目的	経営計画	事業管理	組織管理	指導監督
全法人	25年度	85.2	95.4	83.7	87.8	88.3
	(24年度)	(84.4)	(94.6)	(85.3)	(88.5)	(90.6)

注 マネジメント評価の対象となった25法人の平均値。

《やや遅れている法人は延べ8法人》

個別項目のマネジメント評価の状況を見ると、やや遅れている法人は、「情報公開の状況」2法人、「顧客ニーズ・満足度の把握」2法人、「意見・要望等への対応」2法人、「組織体制の効率化」1法人、「コンプライアンス対策」1法人となっています。

マネジメント評価の状況(個別項目)				単位：法人
項目	達成	概ね達成	やや遅れている	重大な改善事項がある
1 目的				
1-1 設立目的への社会的要請	23	2	0	0
1-2 他団体の代替可能性	9	16	0	0
1-3 県直営と比較した優位性	20	5	0	0
1-4 情報公開の状況	13	10	2	0
2 経営計画				
2-1 経営基本方針等の浸透度	22	3	0	0
2-2 計画と実績の差異分析	22	3	0	0
2-3 リスク・マネジメント対策	19	6	0	0
2-4 運営評価結果の次期経営計画への反映状況	24	1	0	0
3 事業管理				
3-1 事業目標の設定状況	19	6	0	0
3-2 顧客ニーズ・満足度の把握	13	10	2	0
3-3 意見・要望等への対応	16	7	2	0
4 組織管理				
4-1 組織体制の効率化	18	6	1	0
4-2 業務執行体制の機能状況	23	2	0	0
4-3 人材育成・能力開発	18	7	0	0
4-4 コンプライアンス対策	15	9	1	0
4-5 職員満足度向上への対応	14	11	0	0
5 指導監督				
5-1 法人との意思疎通	21	4	0	0
5-2 運営評価結果への取組状況	18	7	0	0
5-3 指導・監督の成果	14	11	0	0
注 マネジメント評価の対象となった25法人				

《全般的にマネジメントレベルは向上》

全般的には平成16年度に運営評価制度を導入して以来、県の施策推進における法人の役割の明確化や、PDCAサイクルに基づく事業管理、業務執行体制の充実や職員満足度の向上など、法人のマネジメントを重視した改善の取組が進められている結果、過去5年間の状況を見ても概ね上昇傾向にあることから、マネジメントレベルは向上していると認められます。

マネジメント評価の過去5年間の状況				(単位：%)	
年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
全体平均	78.7	82.7	85.6	88.7	88.1

《不断の改善・改革に向けた課題認識の重要性》

しかし、組織のマネジメントについては、本来「課題が全くない」ということはあり得ず、一つの課題を解決すれば、また新たな課題に対応した不断の改善・改革が求められるものです。

震災対応も十分必要な事ではありますが、マネジメント評価について、各法人が自

らのマネジメントを真摯に評価し、課題を課題として認識することが最も重要です。

### 《経営改善目標設定による改善策への取組み》

課題を認識した結果、低い評価となった項目については経営改善目標を設定し、具体的な改善策を講じることにより、より一層マネジメント能力を向上していく必要があります。課題については、情報公開ように比較的短期間で実施できるものもありますが、組織体制の効率化や県職員派遣の引上げに伴うプロパー職員の人材育成等中長期的な視点に立った取組みが求められるものもあり、震災への対応も求められておりますが、最終的な目標・あるべき姿を設定しつつ、中間評価の指標を設ける等、継続的な取組みを推進しやすい仕組みを整えつつ、粘り強く取り組んでいく必要があります。

#### [マネジメントの改善に向けた主な取組事例]

##### 【経営計画管理】

- ・「中長期経営基本計画」に基づいた施設計画を作成し、3ヵ月に1回、本部においてプロセスマネジメント会議を開催し、進捗状況の管理と課題の改善を実施（(社福)岩手県社会福祉事業団）
- ・毎年度事業計画を定め、年度当初の会議で全職員に周知しているほか、毎月実施している幹部会議において差異分析を実施（岩手県土地開発公社）
- ・毎月開催される経営会議において、各事業における計画目標値と実績の差異の分析について議論（三陸鉄道株）
- ・四半期毎に PDCA サイクルによる評価を行い、施設長会議等を通じて共通認識を持つとともに事業計画と実績の差異について、次の事業に反映（(公財)岩手県スポーツ振興事業団）

##### 【事業管理】

- ・「いわて観光おもてなしセンター」を事務局内に組織し担当者を定め、観光客から寄せられる意見・苦情等の対応に当たっている。また、苦情等はデータに取りまとめ、より良い受入体制の整備等の啓発として協賛会員に対し情報提供を実施（(公財)岩手県観光協会）
- ・月別販売・経費計画書を策定し、月毎に実績を検証するとともに、10月には上期の実績を基に見直し計画を策定（岩手県産株）
- ・事業の参加者や機関誌、情報誌の読者へのアンケート実施、機関誌編集委員との意見交換、ホームページでの意見募集など、顧客のニーズや満足度の把握（(公財)岩手県国際交流協会）
- ・顧客訪問、アンケートにより市場調査を行い、事業計画の策定等運営に活用。また、いわてクリーンセンター苦情要望等対応要領を定め、顧客からの苦情、要望、意見等を職員間で共有し年次計画に反映（(一財)クリーンいわて事業団）
- ・差異分析結果を毎月の諸会議で伝達し、また管理会議ではその対応策を指示するなどその時点で可能な改善策を実施。またそれらについては、常勤役員会や経営改善委員会を開催し検討（(財)いわてリハビリテーションセンター）

##### 【人事・組織】

- ・最小限の体制で効率的な組織運営を行うためチーム制を導入し、超過勤務手当も減少（(公財)岩手県国際交流協会）
- ・業務が特定の部署に偏らないよう業務調整会議を開催し、業務処理のフラット化を実施（(公財)岩手県土木技術振興協会）
- ・職場活性化検討チームを設置し、日常業務を円滑に推進するための職員要望等について、検討協議・改善策を企画するなど職場活性化を実施（(一社)岩手県畜産協会）
- ・専門性とマインド面について計画的に研修を実施（(IGR)いわて銀河鉄道株）
- ・若手プロパー職員の育成計画を策定（(公財)いわて産業振興センター）
- ・OJTによる育成とともに「新人職員研修」などに参加させている。また平成23年度ネット販売の強化に伴い、関連するスキルアップセミナーに参加させるなど社員参加の強化を実施（岩手県産株式会社）



#### 【コンプライアンス関係】

- ・朝礼及び月1回開催の全体会議等により職員に対し啓発を行っているほか、コンプライアンスマニュアルを策定し、役職員に配布・周知を実施（(公財)岩手県観光協会）
- ・コンプライアンスの日を定めて意識啓発を行っているほか、朝礼時必要に応じ意識啓発を実施（(公財)さんりく基金）
- ・コンプライアンスマニュアルを職場研修（年2回）で周知するとともに、全職員がいつでも閲覧できるようにグループウェアに掲示。毎月15日に折々の話題を掲示版に掲載し啓蒙。その結果を4ヶ月ごとのコンプライアンスチェックシートで検証し、必要に応じ対応策を講じる（(公財)岩手県生物工学研究センター）

#### 【情報公開関係】

- ・ホームページを通じて常に情報公開、情報提供を行うとともに、機関誌等についても常時閲覧が可能となるよう県内市町村に配布（(公財)さんりく基金）
- ・ホームページを活用した事業実施状況の公開、本県観光統計概要の掲載等（(公財)岩手県観光協会）

## 5 今後の運営評価の取組について

本県における県出資等法人の改革については、これまで平成15年度から平成18年度を推進期間とする岩手県出資等法人改革推進プラン（旧プラン）及び平成19年度から平成22年度を推進期間とする新岩手県出資等法人改革推進プラン（新プラン）に基づき、3つの改革を柱とした改革に取り組み、18団体（61→43）を整理合理化するなど一定の成果をあげております。

【改革1】 県出資等法人のあり方の見直し

【改革2】 県関与の適正化

【改革3】 県民の理解を深めるための情報公開の推進

平成23年度に策定した、「いわて県民計画第2期アクションプラン[改革編]」（計画期間 平成23年度～26年度）においても、3つの改革の柱を継承し、引き続き改革に取り組むこととしております。

今後においても厳しい財政的環境の下、東日本大震災津波からの復興に県を挙げて取り組むため、

- ・法人の整理合理化等の推進
- ・復興に向けた法人と県の施策の連携強化
- ・運営評価に基づく法人の継続的な改革・改善の推進 等に更に取り組んでまいります。

### (1) 法人の整理合理化等の推進

特例民法法人については、平成25年11月末までに公益法人又は一般法人のいずれかを選択して移行申請手続きをすることとなっており、多くの法人は既に移行しておりますが、当運営評価制度を活用しながら、法人の自立と自律を高め、将来を見据えた各法人のあるべき姿について検証を行うこととします。

### (2) 復興に向けた法人と県の施策の連携強化

一昨年3月に発生した東日本大震災津波の復興に向け、各法人では国や市町村等から「被災者等生活困窮者への支援」、「被災地介護予防支援」、「用地取得事業の受託」など多種多様な

事業を実施しております。

今後も県出資法人の持つ資源・能力を活用しながら復興を強力に進めるため、県と県出資法人の施策の連携強化について検証を行うこととします。

### (3) 運営評価に基づく法人の継続的な改革・改善推進

毎年度実施する運営評価結果を事業に反映しつつ、外部・内部環境分析を行い、法人の今後の果たすべき役割、あるべき姿や課題を明らかにした上で、法人のミッションを果たすための事業目標、法人運営の課題解決のための経営改善目標を策定し、より一層効率的に質の高いサービスを提供できる法人となるような取組みを推進していくこととします。

また、今後も運営評価の方法・内容等についても随時見直しを行うほか、制度全体としての一層の効率化に努めることとします。

#### 《外部経営調査結果の横展開化》

平成 24 年度の外部経営調査（特定課題調査）については、東日本大震災津波への対応などにより実施を見送りましたが、平成 25 年度以降は、可能な限り各法人の共通の課題をテーマとして取り上げ、調査結果の横展開を図ることにより、一層経営改善の取組みを進めていくこととします。

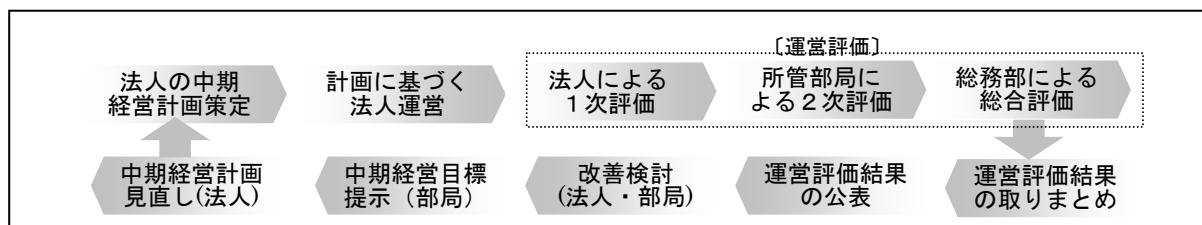
#### 《適切な目標設定による施策推進、経営改善の仕組みの構築》

また、PDCA サイクルを効果的に運用するためには、目標設定の妥当性が非常に重要であるため、目標の妥当性を予め検証するプロセスを設け、抽象的・定性的で目標達成状況の検証が困難な目標や、達成が容易であったり、経営改善に寄与しないと認められる目標等については見直しを求めたところです。今後も目標の妥当性を予め検証する仕組みや目標の進捗状況の確認を行う仕組みを確立することにより、適切な目標に基づき県の施策推進における役割を果たし、かつ経営改善の実効性を高めていく仕組みを構築します。

## 6 法人ごとの運営評価結果の記載内容について

平成 25 年度運営評価は、平成 24 年度を主たる評価の対象年度とし、対象 43 法人のうち、類型 1 に該当する 25 法人については各法人及び所管部局においてそれぞれ 1 次評価、2 次評価を行い、類型 2 に該当する 18 法人については所管部局において法人の経営状況を把握した上で、さらに、統括部署である総務部において、1 次及び 2 次評価の結果等を勘案しながら、総合評価として取りまとめたものです。

### 【PDCA サイクルによる運営評価制度の流れ】



法人ごとの運営評価結果における記載内容等は、次のとおりとなっています。

## I 法人の概要

### ・法人の名称等

運営評価シートに基づき、「法人の名称」、「設立の根拠法」、「代表者職氏名」、「設立年月日」、「事務所の所在地」、「電話番号」及び「県所管部局課・室」を記載しています。

### ・資（基）本金等

運営評価シートに基づき、平成 25 年 7 月 1 日現在における基本財産・資本金の金額、県の出資等額を記載しています。

### ・設立の趣旨、事業内容

法人の定款、または寄附行為で定められている設立目的（事業目的）、事業内容等を記載しています。

### ・常勤職員の状況

運営評価シートに基づき、平成 25 年 7 月 1 日現在における「常勤職員数」を記載するとともに、「うち県派遣」及び「うち県 OB」の職員数を記載しています。

また、平成 24 年度における常勤職員（派遣職員を除いたプロパー職員）の平均給与支給額（賞与及び手当を含む。）及び平均年齢を記載しています。

### ・常勤役員の状況

運営評価シートに基づき、平成 25 年 7 月 1 日現在における「常勤役員数」を記載するとともに、「うち県派遣」及び「うち県 OB」の役員数を記載しています。また、平成 24 年度における常勤役員の平均報酬支給額及び平均年齢を記載しています。

なお、役職員の給与等については、県の出資等割合が 25%以上の法人には総務省通知により情報を公開するよう要請されていますが、個人情報保護等の観点から公表を控える意向の法人については、非公表としています。

### ・経営目標（事業目標及び経営改善目標）の達成状況

事業目標、経営改善目標それぞれについて、目標として掲げた項目名、目標及び実績を箇条書きで記載しています。

### ・県の財政的関与の状況

平成 22～24 年度の県の「長期貸付金残高」、「短期貸付金実績」、「損失補償残高」、「補助金額」、「委託料」、「その他」の財政的関与の状況を記載しています。

### ・財務の状況

各法人の平成 22～24 年度決算に基づき、過去 3 年間の「貸借対照表」、「正味財産増減計算書」（または「損益計算書」）、及び「財務指標」を記載しています。

## Ⅱ 所管部局の評価

### ・法人の役割と実績

県の施策推進における法人の役割と平成 24 年度における実績を評価し、課題が生じている場合、その解決に向けた所管部局の指導方針について記載しています。

### ・財務状況

財務の安全性・健全性や効率性、自立性などの観点から、法人の財務について評価するとともに、課題が生じている場合、その解決に向けた所管部局の指導方針について記載しています。

### ・マネジメントの状況

経営計画管理や事業管理、組織管理などの観点から、法人のマネジメントについて評価するとともに、課題が生じている場合、その解決に向けた所管部局の指導方針について記載しています。

### ・法人への県関与

法人の設立目的、県の施策推進における法人の役割、法人の運営状況、新プランに基づく県出資等法人改革工定表を踏まえ、法人への県関与について評価するとともに、課題が生じている場合、その解決に向けた所管部局の指導方針について記載しています。

## Ⅲ 統括部署（総務部）の総合評価

### ・総合評価のレーダーチャート

レーダーチャートは、シートにおけるマネジメント評価の 5 つの分野と、財務（フローチャートによる評価）の評価結果に基づき作成しました。

5 つの分野の評価項目は以下のとおりとなっています。

#### ① 法人の目的

設立目的への社会的要請、他団体の代替可能性、県直営と比較した優位性、情報公開の状況

#### ② 経営計画管理

経営基本方針等の浸透度、計画と実績の差異分析、リスクマネジメント対策、運営評価結果の次期経営計画への反映状況

#### ③ 事業管理

事業目標の設定状況、顧客ニーズ・満足度の把握、意見・要望等への対応

#### ④ 組織管理

組織体制の効率化、業務執行体制の機能状況、人材育成・能力開発、コンプライアンス対策、職員満足度向上への対応

#### ⑤ 所管部局による指導・監督

法人との意思疎通、運営評価結果への取組状況、指導・監督の成果

これら 5 つの分野については、①～④については法人の 1 次評価、⑤については所管部局の 1 次

評価を基に、それに対する所管部局の評価（①～④）または法人の評価（⑤）等を踏まえるとともに、他法人に係る評価との整合性が図られるよう留意して評価を行いました。

また、「財務」については、運営評価シートにおける特別法・会社法法人用、特例民法法人用それぞれの財務の「フローチャートによる評価」に基づき、評価結果（A～D）を記載しています。レーダーチャートの作成に当たって、財務の評価結果（A～D）を次により数値化しました。

〔A:100点、B:70点、C:40点、D:20点〕

なお、レーダーチャートにおける点線は、平成24年度運営評価における各法人の評価結果を参考表示したものです。

#### ・取り組むべきこと

運営評価の結果を踏まえ、法人と所管部局において今後対応すべき事項について、それぞれ「法人が取り組むべき事項」、「所管部局が取り組むべき事項」に区分して記載しています。

#### ・運営評価における指摘事項への取組状況

平成22年度から平成24年度の岩手県出資等法人運営評価レポートにおいてそれぞれ「法人が取り組むべき事項」、「所管部局が取り組むべき事項」と指摘された事項への現在の取組状況を法人及び所管部局がそれぞれ記載しています。

別表1

## 平成25年度県出資等法人運営評価対象法人一覧

所管部 局等	所管課	NO.	法人の名称	資本金等 (千円)	県出資金等		運営評価実施区分	
					金額(千円)	割合(%)	類型 I	類型 II
政策地 域部	政策推進室	1	(公財)さんりく基金	335,400	230,000	68.6%	○	
	NPO・文化国際課	2	(公財)岩手県国際交流協会	1,081,174	787,771	72.9%	○	
	地域振興室	3	三陸鉄道(株)	300,000	144,000	48.0%	○	
	地域振興室	4	IGRいわて銀河鉄道(株)	1,849,700	1,000,000	54.1%	○	
	地域振興室	5	(株)アイシーエス	35,000	3,500	10.0%		○
	地域振興室	6	(株)岩手朝日テレビ	3,000,000	30,000	1.0%		○
環境生活部	資源循環推進課	7	(一財)クリーンいわて事業団	10,200	3,300	32.4%	○	
保健福 祉部	保健福祉企画室	8	(財)グリーンピア田老	10,000	7,000	70.0%		○
	保健福祉企画室	9	(公財)いわて愛の健康づくり財団	322,202	110,300	34.2%		○
	医療政策室	10	(財)いわてリハビリテーションセンター	30,000	10,000	33.3%	○	
	地域福祉課	11	社会福祉法人岩手県社会福祉事業団	10,000	10,000	100.0%	○	
	長寿社会課	12	(公財)いきいき岩手支援財団 ※旧岩手県長寿社会振興財団	3,937,699	3,105,000	78.9%	○	
商工労 働観光 部	商工企画室	13	(公財)いわて産業振興センター	306,030	155,000	50.6%	○	
	商工企画室	14	岩手県オイルターミナル(株)	720,000	250,000	34.7%	○	
	経営支援課	15	岩手県信用保証協会	9,507,431	5,286,083	55.6%		○
	科学・ものづくり振興課	16	(株)盛岡地域交流センター	2,600,000	611,000	23.5%		○
	科学・ものづくり振興課	17	(株)北上オフィスプラザ	1,791,000	300,000	16.8%		○
	科学・ものづくり振興課	18	(株)岩手ソフトウェアセンター	1,278,500	350,000	27.4%	○	
	産業経済交流課	19	(公財)盛岡地域地場産業振興センター	27,370	7,500	27.4%		○
	産業経済交流課	20	岩手県産(株)	90,000	41,226	45.8%	○	
	観光課	21	(公財)岩手県観光協会	57,000	47,000	82.5%	○	
	観光課	22	(公財)盛岡観光コンベンション協会	304,900	75,000	24.6%		○
	雇用対策・労働室	23	(公財)ふるさといわて定住財団	212,500	200,000	94.1%	○	
	雇用対策・労働室	24	(株)クリーンピアいわて	50,000	20,000	40.0%		○
企業立地推進課	25	岩手県土地開発公社	30,000	30,000	100.0%	○		
農林水 産部	団体指導課	26	岩手県漁業信用基金協会	2,289,250	803,300	35.1%		○
	団体指導課	27	岩手県農業信用基金協会	3,580,010	793,770	22.2%		○
	流通課	28	(公社)岩手県農畜産物価格安定基金協会	1,034,250	497,050	48.1%		○
	流通課	29	(株)岩手畜産流通センター	2,880,340	654,030	22.7%		○
	農業振興課	30	(公社)岩手県農業公社	40,000	35,000	87.5%	○	
	農業普及技術課	31	(公財)岩手生物学研究センター	100,000	100,000	100.0%	○	
	農産園芸課	32	(公社)岩手県農産物改良種苗センター	500,000	200,000	40.0%		○
	畜産課	33	(一社)岩手県畜産協会	73,000	41,000	56.2%	○	
	森林整備課	34	(公財)岩手県林業労働対策基金	1,150,000	900,000	78.3%	○	
	水産振興課	35	(社)岩手県栽培漁業協会	10,070	4,000	39.7%		○
水産振興課	36	(公財)岩手県漁業担い手育成基金	510,000	250,000	49.0%		○	
県土整 備部	県土整備企画室	37	(公財)岩手県土木技術振興協会	11,000	6,000	54.5%	○	
	下水環境課	38	(公財)岩手県下水道公社	10,000	5,000	50.0%	○	
	空港課	39	岩手県空港ターミナルビル(株)	340,000	100,000	29.4%		○
教育委 員会	教育企画室	40	(財)岩手育英奨学会	508,240	394,199	77.6%	○	
	生涯学習文化課	41	(公財)岩手県文化振興事業団	10,000	10,000	100.0%	○	
	スポーツ健康課	42	(公財)岩手県スポーツ振興事業団	10,000	10,000	100.0%	○	
警察本部	組織犯罪対策課	43	(公財)岩手県暴力団追放推進センター	600,000	499,105	83.2%	○	
合 計 (43法人)				41,552,266	18,116,134	43.6%		
うち特別法・会社法法人(17法人)				30,351,231	10,426,909	34.4%		
うち公益法人等(26法人)				11,201,035	7,689,225	68.6%		

別表2

## 平成25年度県出資等法人運営評価対象法人概要及び運営評価結果一覧

所管部局等	法人の名称	財務の状況(平成24年度決算)(千円)			県の財政的関与 (千円、件)						役員の状況(全体)			県職員の代表者就任	役員の状況(常勤)			職員の状況(常勤)			目標達成状況		マネジメント評価				
		単年度収支	繰越損益(正味財産期末残高)	財務評価	運営費補助金	短期貸付金(運転資金)	損失補償	委託料	うち特命随意契約の件数	うち特命随意契約の金額	役員数	うち県派遣	うち県OB		役員数	うち県派遣	うち県OB	職員数	うち県派遣	うち県OB	事業目標	経営改善目標	目的	経営計画	事業管理	組織管理	指導監督
政策地域部	(公財)さんりく基金	▲ 147,112	1,266,570	C						8	2		副知事	0			2			6/9	1/1	100.0	100.0	100.0	92.0	86.7	
	(公財)岩手県国際交流協会	7,252	1,199,166	C	20,542		24,221	2	5,804	12	1	1		1		1	3			5/5	3/3	80.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	三陸鉄道(株)	22,739	▲ 128,875	B	105,184	700,000		6,050	1	6,050	15	1	1		2		1	52			1/4	3/4	80.0	90.0	73.3	52.0	86.7
	IGRいわて銀河鉄道(株)	234,739	131,387	A				12,333	1	12,333	14	2	1		4		1	201	1	1	3/3	4/4	100.0	100.0	100.0	92.0	100.0
	(株)アイシーエス	575,657	717,790	-				1,495,893	66	1,466,926	17	2	2		7		1	565		1	-	-	-	-	-	-	-
	(株)岩手朝日テレビ	117,042	247,448	-							15				6			65			-	-	-	-	-	-	-
環境生活部	(一財)クリーンいわて事業団	440,966	3,499,066	A		300,000	1,787,156			8	1	2		1		1	4	1		3/4	3/4	90.0	100.0	73.3	100.0	100.0	
保健福祉部	(財)グリーンピア田老	41,060	201,332	-						9				1			37			-	-	-	-	-	-	-	
	(公財)いわて愛の健康づくり財団	▲ 1,682	348,578	-				5,142	1	5,142	7	1		0			1			-	-	-	-	-	-	-	
	(財)いわてリハビリテーションセンター	125,728	407,781	A				175,995	7	176,164	11	2	1		3		1	140	1	27	2/4	7/7	80.0	90.0	60.0	76.0	100.0
	(社福)岩手県社会福祉事業団	216,624	1,167,412	A	315,075			646,371	2	7,053	12	1	7		2		2	354	28	2	4/4	4/4	100.0	100.0	100.0	100.0	73.3
	(公財)いきいき岩手支援財団	131,626	4,351,688	B				99,725	5	49,304	11	1	3		1		1	15		2	3/3	1/3	70.0	75.0	73.3	60.0	86.7
商工労働観光部	(公財)いわて産業振興センター	394,895	3,084,391	B			406,438	34,202	6	22,697	9	1	1		3	1	1	48	5		4/10	1/4	70.0	100.0	100.0	84.0	86.7
	岩手県オイルターミナル(株)	158,894	98,197	A						12	2	2	副知事	2		1	8			1/1	2/4	80.0	90.0	60.0	92.0	73.3	
	岩手県信用保証協会	1,151,828	23,673,918	-			474,993			17	1	2		4		2	60			-	-	-	-	-	-	-	
	(株)盛岡地域交流センター	80,912	88,265	-						17	1	1		3		1	8			-	-	-	-	-	-	-	
	(株)北上オフィスプラザ	6,941	▲ 324,995	-				7,249		14	1	1		2			3			-	-	-	-	-	-	-	
	(株)岩手ソフトウェアセンター	5,598	49,647	A						16	1		部長	2			7			3/3	1/3	80.0	90.0	73.3	84.0	73.3	
	(公財)盛岡地域地場産業振興センター	▲ 9,011	607,433	-				513	1	513	17				0			5			-	-	-	-	-	-	-
	岩手県産(株)	17,846	77,375	A		75,000		20,684		12	2	1		3		1	59			1/3	4/5	80.0	90.0	66.7	60.0	86.7	
	(公財)岩手県観光協会	▲ 11,017	97,721	B				15,086	10	13,716	17	1			1	1		6	3		5/5	2/2	90.0	100.0	100.0	100.0	86.7
	(公財)盛岡観光コンベンション協会	▲ 1,001	360,383	-				401	1	401	12				1			6			-	-	-	-	-	-	-
	(公財)ふるさといわて定住財団	▲ 3,654	2,562,897	B						15	1	2		1		1	4			1/4	3/4	80.0	100.0	86.7	84.0	100.0	
	(株)クリーンピアいわて	3,546	121,964	-						11	2			1			43		1	-	-	-	-	-	-	-	-
	岩手県土地開発公社	30,280	8,432,463	A				3,192	2	3,192	8	3	1		1		1	10	3		2/4	3/3	60.0	100.0	86.7	76.0	60.0
	農林水産部	岩手県漁業信用基金協会	32,398	1,157	-			16,371			9				1			5			-	-	-	-	-	-	-
岩手県農業信用基金協会		113,212	0	-						10	1	1		1			10			-	-	-	-	-	-	-	
(公社)岩手県農畜産物価格安定基金協会		2,492	2,785,967	-						14	1	1		1		1	9			-	-	-	-	-	-	-	
(株)岩手畜産流通センター		141,281	▲ 109,171	-			11,802	1	11,802	14	1	1		6		1	341		1	-	-	-	-	-	-	-	
(公社)岩手県農業公社		21,625	1,897,325	A			273,153	36,381	2	8,031	15	1	3		3		2	51	5		4/7	6/7	90.0	90.0	100.0	84.0	86.7
(公財)岩手県生物工学研究センター		▲ 5,099	79,872	B				272,190	2	272,190	8	2	1		1		1	27	2	1	2/2	3/3	100.0	90.0	73.3	100.0	100.0
(公社)岩手県農産物改良種苗センター		3,197	315,936	-						14	1	1		2		1	9			-	-	-	-	-	-	-	
(一社)岩手県畜産協会		114,241	372,041	A			6,483		2	6,483	19		1		1		38		3	5/6	3/3	90.0	100.0	73.3	92.0	100.0	
(公財)岩手県林業労働対策基金		▲ 1,332	3,483,812	B						12	1			1			3			1/3	2/3	100.0	90.0	86.7	92.0	60.0	
(社)岩手県栽培漁業協会		▲ 25,168	174,185	-						16	1	1		1		1	9			-	-	-	-	-	-	-	-
(公財)岩手県漁業担い手育成基金	▲ 633	545,266	-						9	1	1		0			2		1	-	-	-	-	-	-	-	-	
県土整備部	(公財)岩手県土木技術振興協会	▲ 19,455	962,267	B			743,314	147	743,311	8	1	1		1		1	27	2		4/4	2/3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	(公財)岩手県下水道公社	9,687	174,501	A					160,305	9	1	2		1		1	27	11	1	1/5	1/3	90.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	岩手県空港ターミナルビル(株)	33,116	546,760	-				6,747	2	6,747	8	1	1		1		9			-	-	-	-	-	-	-	
教育委員会	(財)岩手育英奨学会	399,494	4,697,138	A	5,871					9	1	5		0			3		1	3/3	4/5	80.0	100.0	60.0	92.0	100.0	
	(公財)岩手県文化振興事業団	▲ 26,903	1,179,357	B			1,467,428	32	925,609	11	1	5		4	1	2	80	26	4	2/5	4/5	80.0	100.0	86.7	100.0	86.7	
	(公財)岩手県スポーツ振興事業団	2,501	239,310	B			600,062	2	135,273	9	1	3		2		1	45	16	21	1/3	5/7	80.0	100.0	100.0	100.0	73.3	
警察本部	(公財)岩手県暴力団追放推進センター	5,104	648,149	A			2,194	1	2,194	12		1		1		1	3		3	5/6	5/5	80.0	90.0	60.0	84.0	100.0	
合計	(43法人)	4,390,454			446,672	1,075,000	2,958,111	5,853,963	305	4,041,240	522	46	58	3法人	80	3	31	2,404	99	75	72/110	77/99	85.2	95.4	83.7	87.8	88.3
	うち特別法・会社法人(17法人)	2,942,653	34,790,742		420,259	775,000	491,364	2,210,321	75	1,514,103	221	22	22	2法人	48	0	13	1,800	32	6							
	うち公益法人等(26法人)	1,447,801			26,413	300,000	2,466,747	3,643,642	230	2,527,137	301	24	36	1法人	32	3	18	604	67	69							

注1 目標達成状況欄は、目標達成項目数/目標設定項目数

注2 (株)アイシーエスに係る、特命随意契約の件数及び金額は、1件当たり100万円以上のものを記載

注3 「役員の状況(全体)」欄から「職員の状況(常勤欄)」は、H23はH24.7.1現在、H24はH25.7.1現在の状況